

パネルディスカッション「核データ・炉物理研究は、社会にいかに関係すべきか」
—あとがき—

原子力安全委員会事務局 佐治悦郎(座長)

純粋技術的課題から安全規制に関する問題に至るまで、両部会が共同して取り組むべき課題としてさまざまな提案がなされ、活発な議論が行われた。これら提案された課題について、両部会の実際の活動につなげていくためには、取り組むべき課題の優先順位をつけたり、取捨選択を行ったりといった作業が必要であり、本パネルディスカッションの最後では、そのために議論を継続していく必要があるとの共通認識の下、以下のアクションを取ることが決められた。

- ① 核データ部会と炉物理部会の中に、今回の提案を受け、今後、定常的に検討・議論していく場を設ける。具体的には、会合の費用が発生しない、メーリングリスト(ML)を設置して検討・議論の場とする。
- ② この ML での議論の結果は、半年毎の学会で開かれる「核データ・炉物理特別会合」で、定期的にその進捗を報告することとする。(本件はその後、年に一回として ML 上で改めて提案された。)
- ③ 核データ部会長と炉物理部会長は、各々の部会から、1名の幹事(窓口)をまず指名する。期限は1ヶ月以内とし、この2名のリードの下に活動を開始することとする。

その後、上記の取り決めに従って、原研の深堀氏と三菱重工の松本氏が幹事として両部会長より指名された。両氏及び ML の開設及び管理を引き受けてくださることとなったサイクル機構の石川氏(本パネルディスカッション企画の発案者)によって、議論の方向性の試案作り及び ML 開設の準備が進められた。そして、ML への登録募集を経て、12月15日から「核データ・炉物理研究と社会の係わり」と題された ML の運用が開始され、議論が始まっている。そこでは、これより、概ね1年間で具体的なアクションプラン作りを行っていくことが提案されている。核データ部会・炉物理部会員各位におかれては、ぜひ、本 ML に登録いただき議論に参加されるよう、この場を借りてお願いする次第である。

(ML への登録申し込みは、サイクル機構・石川眞氏(ishikawa@oec.jnc.go.jp)まで、氏名、所属、メールアドレスを明記の上、電子メールにてお願いします。)